

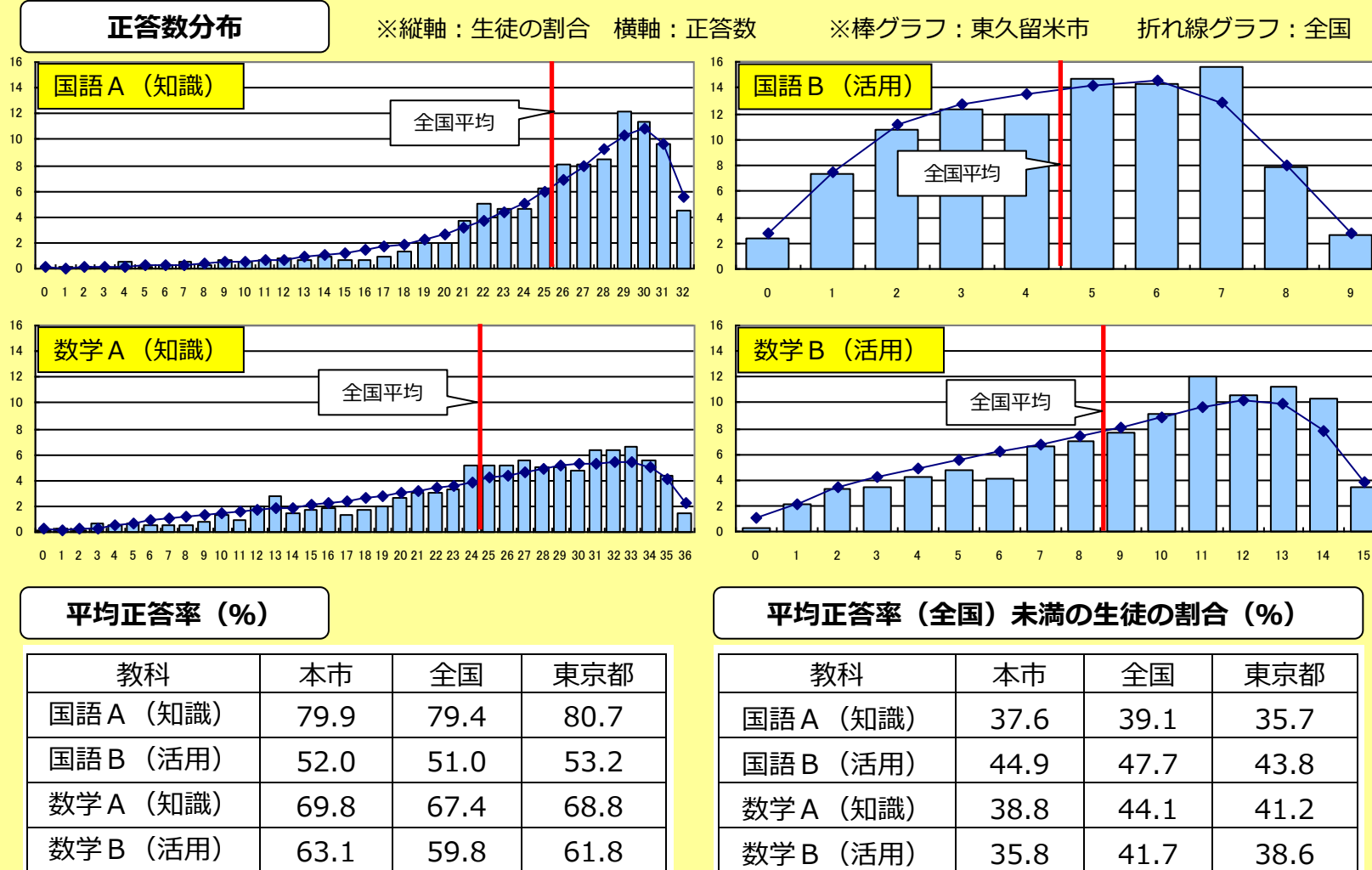
全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について【中学校】

学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。
本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果

に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸びを、市全体及び学校ごとにまとめ公表する。
また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

(1) 学力の定着状況について (中学3年生) 平成26年度全国学力・学習状況調査 (平成26年4月実施) の結果より

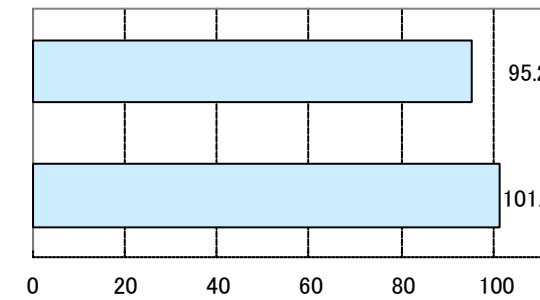


(2) 学力の伸びについて 平成26年度市学力調査 (平成26年4月実施) の結果より

平成24年度中学1年生と平成26年度中学3年生 (同一生徒) の本市の平均点を、それぞれ全国平均を100とした指数に換算し、伸びを比較

【国語】

平成24年度
中学1年生

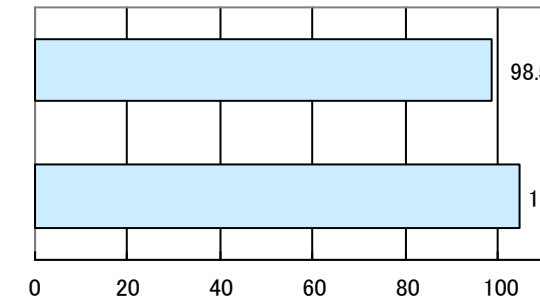


6.2ポイント
上昇

平成26年度
中学3年生

【数学】

平成24年度
中学1年生



6.1ポイント
上昇

平成26年度
中学3年生

【概要】

- 国語において、平成24年度中学1年生では、全国値100を、4.8ポイント下回っていたが、平成26年度中学3年生では、1.4ポイント上回り、2か年で6.2ポイント上昇した。
- 数学において、平成24年度中学1年生では、全国値100を、1.5ポイント下回っていたが、平成26年度中学3年生では、4.6ポイント上回り、2か年で6.1ポイント上昇した。

【各教科の課題】

《国語》

- 「要点の読み取り」「表現に注意して読むこと」「心情の読み取り」「古文・心情の理解」に課題が見られる。

《数学》

- 「資料の読み取り (割合)」「百分率・式の選択」「文字式の利用」「1次関数となる事象」に課題が見られる。

調査結果の概要

現状・課題

【概要】

- 正答数の分布は、国語A (知識) において正答数の多い層が厚く、国語B、数学A・Bともに幅広く分布しており、正答数の少ない層が厚くなっている。
- 平均正答率は、全ての教科で全国平均を上回っている。また、国語はA (知識)・B (活用) とともに都平均を下回っており、数学はA (知識)・B (活用) とともに上回っている。
- 平均正答率 (全国) 未滿の生徒の割合は、国語B (活用) は、44.9%であり、活用に不十分な状況が見られる。また、全国に比べ全ての教科ともに1.5ポイント以上下回っている。

【各教科の課題】

《国語》

- 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることや、資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことに課題がある。

《数学》

- 関数の意味を理解していることや、付加された条件の下で証明を振り返って考え事柄を用いること、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え判断の理由を説明することに課題がある。